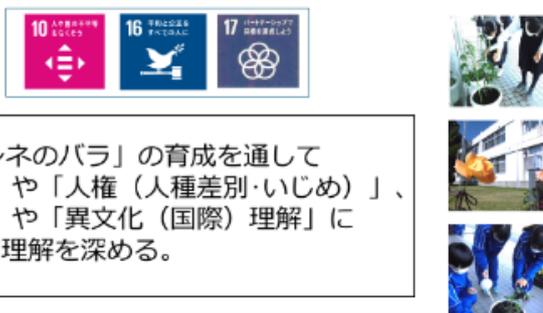
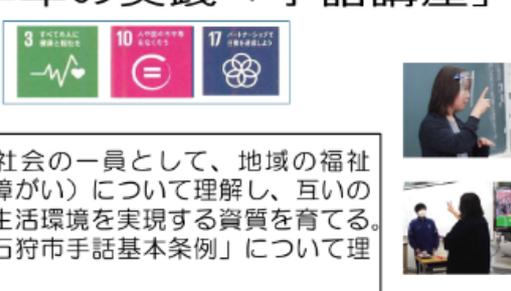


1 石狩中学校 ESD の特徴

本校は、広い意味での「環境」を活動テーマとして、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けることを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う」ことを目標に学習活動に取り組んでいる。また、留意点として、①現代的課題を「地球規模」・「地域」の両視点から捉える。②自己の生き方、あり方とより良い社会の構築を関連づけて考える。③持続可能な社会の構築に向けて自己のできることに加え、社会参加・参画の必要性を理解し、行動に移そうとする。以上の3点を共通のおさえとしている。

2 活動事例

<h4>1年生の実践「地域の課題と未来」</h4> <p>石狩探訪（石狩湾新港、石狩の歴史文化）</p>  <p>石狩湾新港の企業の訪問見学、その他歴史や文化に関わる調査から、良さと課題よりよい未来を考える</p> <p>石狩海岸の環境学習（海浜植物、ゴミの実態）</p>  <p>石狩海岸の海浜植物や環境問題を学ぶ 海岸のごみ調査やハマナスの苗植え、環境保全の提案</p>	<h4>2年生の実践「循環型社会と省エネ」</h4> <p>（エネルギー・ゴミ問題、地球温暖化）</p>  <p>持続可能な社会に向かうための条件の1つとしての循環型社会。地球資源には限りがあり、エネルギー問題やゴミ問題が社会問題になっている。 石狩市の現状やその他の地域や国について調査を進め、さらに札幌市の取り組みについて学習し、比較しながら石狩市のよりよい循環型社会のあり方について考え行動できるようにする。</p>
<h4>3年生の実践「共生社会と防災」</h4>  <p>災害に強い持続可能な地域の構築のためには「防災」・「減災」・「自助」・「共助」が重要。本校の災害講座や防災訓練では体験を通して、安心・安全でよりよい共生社会の在り方について考え行動できるようにする。</p>	<h4>生徒会中心の実践「人権・平和・異文化理解」</h4>  <p>「アンネのバラ」の育成を通して「平和」や「人権（人種差別・いじめ）」、「共生」や「異文化（国際）理解」について理解を深める。</p>
<h4>全学年の実践「手話講座」</h4>  <p>地域社会の一員として、地域の福祉（聴覚障がい）について理解し、互いの豊かな生活環境を実現する資質を育てる。また「石狩市手話基本条例」について理解する。</p>	<h4>全学年の実践「防災学習・防災訓練」</h4> <p>地域防災訓練</p>  <p>持続可能な地域の構築のために、共生社会と防災を視点に地域・行政と連携しながら体験的に学習する</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 防災に関わるレクチャー (2) 居住組の確認・役割分担 (3) 給水車・給水タンクの見学 (4) 活動班の確認・役割分担 <p>避難者管理班、情報班、食料・物資班、施設管理班、保健衛生班、総務ボランティア班</p>

3 成果と課題

今年度はコロナの影響もあり、100%の活動とはならなかったが、ユネスコスクールの生徒として、持続可能な社会の形成者としての資質の伸長がみられ、地域や外部の方々から賞賛の声もいただいた。生徒の成長が大いにみられる実践となった。

4 活動全体計画

ESD「持続可能な開発のための教育」の推進

私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決するための学び。
(2005年～2014年での実施を国連総会にて決議)
(ESD: Education for Sustainable Development)
* 6つの概念
多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任制



ESDで育みたい能力

- 多面的・総合的に考える力
- 批判的に考える力(代替案)
- 未来を予測して計画を立てる力
- コミュニケーションを行う力
- つながりを尊重する態度
- 他者と協力する態度
- 進んで参加する態度

ユネスコスクール4つの基本分野

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 人権、民主主義の理解と促進
- 異文化理解
- 環境教育

ユネスコスクールの目標

- 地球規模の諸問題に対処できるような新しい教育内容や手法の開発・発展をめざす。
- 「持続可能な開発のための教育(ESD)」を推進する。

学校教育目標

「人間として美しいものを美しくと感ずることのできるような人間を育てるために」

- ◎心身共に健康でよく考える生徒
- ◎互いに認め合い協力し合う生徒
- ◎自ら進んで実行し最後までやり抜く生徒

重点教育目標

～夢の実現に向けて～

「広い心」「高い志」「たゆまぬ挑戦」

石狩中のユネスコスクールとしてめざす生徒像

◎「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。

- 現代的課題を「地球規模」・「地域」の両視点からとらえる
- 自己の生き方、あり方とより良い社会の構築を関連づけて考える
- 持続可能な社会の構築に向けて自己のできることに加え、社会参加・参画の必要性を理解し、行動に移そうとする

* 持続可能な社会とは：循環型社会・低炭素社会・自然共生社会

SDGs「持続可能な開発目標」の推進

持続可能な世界を実現するために、17の目標と169のターゲットから構成された目標。(2015年～2030年の実施を国連総会にて決議)



総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする

育てたい資質・能力及び態度

- 知識・技能**
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- 思考・判断・表現**
実社会や実生活の中から問いを見だし、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することを目指す
- 主体的に学習に取り組む態度**
探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を養う。

「総合的な学習の時間」各学年の内容		全学年共通テーマ「環境」		全学年共通：災害講座・防災訓練・手話講座	
1年テーマ 「地域の課題と未来」		2年テーマ 「循環型社会と省エネ」		3年テーマ 「共生社会と防災」	
学習内容	地域学習1 「石狩海岸の環境学習」 地域学習2 「石狩探訪」(校外学習)	地域学習 「循環型社会と省エネ」 キャリア学習 「職業体験：将来を展望する」	地域学習 「共生社会と防災」 キャリア学習 「進路設計：生き方を考える」		
ねらい	・地域社会の一員として、諸事象を多角的にとらえる力を育む	・地域社会の一員として、課題を見付け解決案を工夫する力を育む ・職業体験学習を通じて、自己理解を深め、将来を展望する力を育む	・地域社会の一員として、持続可能な地域を構築しようとする力を育む ・進路学習を通じて、将来の進路設計を行う力を育む		
活動内容・探究型	オリエンテーション ① 全50 1. 「石狩海岸の環境学習」 11 ・石狩海岸の海浜植物や環境問題について、ゴミの実態調査やハマナスの苗植えの体験を通して学習する。また、環境保全のためのアイデアを提案する。 2. 「校外学習」(石狩探訪) 17 ・石狩湾新港、砂丘の丘資料館の他、歴史文化に関わる施設などを見学し、地域を多角的にとらえながら課題を見つけ、よりよい地域の未来についてのアイデアを提案する。 3. キャリア学習 (キャリア学習は全て学活を要として実施) 提案発表・発信(文化祭) 15 全学年共通体験学習 「災害講座(10月)」1 (1・2年) 2(3年)、「防災訓練(10月)」3、「手話講座(12月)」1 まとめ・振り返り ①	オリエンテーション ① 全70 1. 「循環型社会と省エネ」 5 ・持続可能な社会に向かうための課題について、循環型社会を視点にエネルギーや資源・ゴミについて学習する。札幌市と比較して石狩市の課題を探り、その解決策の提案する。 2. 「宿泊学習」(札幌市) 17 ・札幌市の施設などを訪問見学し、省エネ、環境へのとりくみなどについて学習する。札幌市と石狩市を比較しながら良い点や課題をまとめ、石狩市のよりよい循環型社会のあり方について提案する。 3. キャリア学習 13 「職業体験学習：将来を展望する」 (職業体験以外のキャリア学習は全て学活を要として実施) 提案発表・発信(文化祭) 15 全学年共通体験学習 「災害講座(10月)」1 (1・2年) 2(3年)、「防災訓練(10月)」3、「手話講座(12月)」1 修学旅行のとりくみ 13 まとめ・振り返り ①	オリエンテーション ① 全70 1. 「共生社会と防災」 13 ・持続可能な地域の構築のために共生社会と防災を視点に地域・行政を交えて学習する。安心・安全で誰もが住みやすい地域を追究しながらアイデアを提案する。(※2021年度は、この時間は職業体験) 2. 「修学旅行」(東北地方) 17 ・東北地方の施設などを訪問見学し、防災、観光、省エネ、環境へのとりくみなどについて学習する。東北地方と比較しながら石狩市の未来を考える。 3. キャリア学習 17 「進路設計：生き方を考える」 (進路設計以外のキャリア学習は全て学活を要として実施) 提案発表・発信(文化祭) 15 全学年共通体験学習 「災害講座(10月)」1 (1・2年) 2(3年)、「防災訓練(10月)」3、「手話講座(12月)」1 修学旅行のとりくみ 13 まとめ・振り返り ①		

* 評価規準・評価の観点とは別紙

◎各教科、道徳、特活、学校行事、地域、NPO各種団体、自治体との関連を図る	◎生徒会：「平和・人権・異文化理解」のとりくみ、「アソビのバラ」育成など(文化部)
---------------------------------------	---